

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	工学院大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コウガクインダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	東京都
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	学外研修
	学部・研究科等名	全学部対象
	担当教職員名・役職	二上武生教授、青木優典(事務職員)、稲井田雛乃(事務職員)
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	304	
受入企業等数	190	
受入企業等名	サミット株式会社,三菱化工機株式会社,三愛石油株式会社,オー・エイ・エス株式会社,株式会社大林組,小川工業株式会社,株式会社柿本商会,株式会社カタヤマ,株式会社上島熱処理工業所,株式会社関電工,株式会社キクチ,技研精機株式会社,株式会社ケミコート,交通システム電機株式会社,国土情報開発株式会社,小原歯車工業株式会社,五洋建設株式会社,サンエム工業株式会社,山王鐵工株式会社,株式会社芝田化工設計,首都高電気メンテナンス株式会社,大成建設株式会社,株式会社高島テクノロジーセンター,株式会社田中建設,千葉市役所,株式会社テクノ工場,株式会社東京システム技研,株式会社東計電算,東光電気工事株式会社,東電同窓電気株式会社,株式会社東和コンピュータマネジメント,株式会社トータルオーエーシステムズ,中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京株式会社,西東京市役所,日本アクティ・システムズ株式会社,日本フィルコン株式会社,日本ビジネスシステムズ株式会社,武州工業株式会社,株式会社プリンガ,株式会社補償業務センター,株式会社松尾工務店,株式会社マテリアル,株式会社三ツ矢,株式会社宮川製作所(等)	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	以下の研修を10日間かけて行う。1. サンプルの建物を用いて、図面作成(平面図～設備図)・調書作成・製本までの一連の流れを体験2. 現場調査、営業の同行3. 研修プログラムの実施(ビジネスマナー、Excel、非木造建物、立木など)	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	全学部3年生を対象に、専門科目の選択必修または選択科目として「学外研修」を位置づけ、夏期休業期間中に実働10日以上就業体験を実施している。事前・事後指導を丁寧に行うことにより、学生の自己理解・業界理解・会社理解・職業理解・専門性理解を通じ、4年次の就職活動へ繋がるインターンシップを行う。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全6回実施。①「履修説明会」でインターンシップの目的や種類を理解させ、任意参加の②「応募する機関の選び方講座」を開講。外部講師による③「自己紹介書作成講座」及び外部講師と1対1での④「自己紹介書添削面談」を実施し、応募書類のブラッシュアップを図る。研修先決定後、教員による⑤「面談や講義」を実施しインターンシップの学習効果を高める。その際、企業理解の為に、受入機関の概要・特徴をまとめる課題を出し指導する。研修参加前に、外部講師による⑥「ビジネスマナー研修」を実施する。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後研修は計4回実施している。9月、外部講師による①「インターンシップ振り返り・成果報告書作成講座」を実施。職業理解・学業理解・能力開発等の視点からインターンシップを振り返る。また、キャリアカウンセラーによる②「成果報告書添削面談」を行い、学んだことのアウトプット方法を指導している。11月、教員による③「プレゼンテーション講座」を実施し、その後、受入機関の方を招いて④「成果報告会」を学内にて実施している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)		
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	研修前、対人力・課題解決力等をルーブリック方式で自己評価を行う。研修後、アンケートを通して、業界理解・自己理解他自身で立てた研修目標への振り返りを行う。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学のインターンシップは、事前指導・実習・事後指導を8ヶ月間におよび指導している。実習では、1企業ごとに5日間または10日間以上の実施期間を確保している。	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生がインターンシップ実施中に作成をする「日誌」の確認・コメント記入や、「受入機関の概要・特徴をパワーポイントでまとめたもの」の添削、インターンシップ終了後に働きぶりを評価する「評価書」の作成を行うよう依頼をしている。	
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://www.kogakuin.ac.jp/career/design/internship/official.html
問い合わせ先	大学等名	工学院大学
	担当部署名	学習支援部 学習支援課
	担当者役職名	学外研修担当
	担当者氏名	青木もしくは稲井田(イナイダ)
	電話番号	03-3340-0829
メールアドレス	gshien@sc.kogakuin.ac.jp	